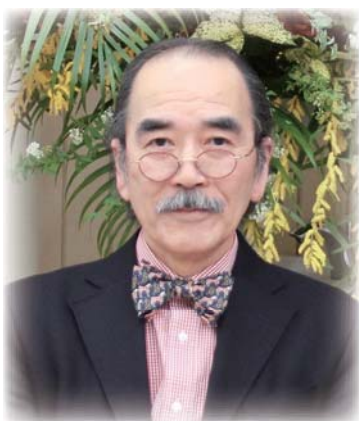


まほろば



2018.1
第197号

新年のごあいさつ



皆さん、新年明けましておめでとうございます。今年は例年に比べ短い休みのせいか、仕事納めから仕事始めまではあっという間の気がしたのは私だけでしょうか？新年を迎えて、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、昨年秋に、念願のMRI 機器が新しくなり、診断がより機能的にできるようになったほかに、耳鼻咽喉科医の常勤により手術にも対応可能となりました。また、熊本医師が孤軍奮闘しておりました循環器内科への大学からの診療援助も始まっています。

それから、当院の二次救急輪番担当コマ数が増加し、ほとんど毎日のように輪番体制をとっています。医師・看護師他スタッフの増員がないなか、大学の協力を得てやりくりしています。輪番が増えたことなどが影響していると思われませんが、入院および外来患者数が増加しています。冬場はどうしてもベッドが不足するのがこの津軽地区の特徴ですが、市立病院をはじめとした回復期リハ・包括ケア・療養型各病棟を有する病院との病病連携がますます不可欠です。患者さんにもいろいろご協力を願うこともありますが、宜しくお願いします。

今年は『戌』年です。『子・丑・・・』とはじまり『戌・亥』で終わることから、『戌』年は、収穫できる年・結実に至る年といわれています。国立病院機構弘前病院スタッフ一同、常に患者さんの目線で患者さんの為に、実を結べる治療又環境を整備すべくこの新しい年をキックオフしたいと考えています。

特別統括病院長：藤 哲



第14回北東北国立病院医療研究会



平成29年11月25日「第14回北東北国立病院医療研究会」が、弘前病院附属看護学校にて開催されました。今回は、ポスター口演4題、ポスター掲示のみ55題、口演発表2題でした。当日は、北東北5病院から、50名の参加があり、各施設各職種それぞれの取り組みや研究活動の成果が発表されていました。

特に、ポスター口演発表では、患者様に安全安楽な医療看護を提供するための取り組みが発表されました。また、多職種間での質疑応答・意見交換が活発に行われ、大変有意義な研究発表会となりました。

本研究会の趣旨である、北東北各病院の職員が、それぞれの医療活動、臨床研究活動を発表しあうことで、病院の連携とレベルの向上を図り、地域医療の発展に貢献できるような活動を発表しあえる会は、大変重要なものであると感じました。

3階病棟看護師長：添田 恵美子



「あなたの接遇は大丈夫？」



に、医療サービスの向上に繋げていく活動を行っています。感謝のお言葉や、時には厳しいお叱りのお言葉をいただくこともございます。ご意見のなかには依然として接遇が不十分であるとのこと指摘が後を絶ちません。「医療はサービス業」と言われる以上、病院に勤務するスタッフすべてが接遇について学ぶ機会は大変重要です。

今年度は12月18日と19日の2日間にわたり、(株)ソラスト青森支社の大坂陽子先生をお招きし、表情や言葉遣いの重要性をはじめ、相手に安心感を与える動作などの講義及び実技指導をしていただきました。また、当院に寄せられた接遇に関するご意見の実例をもとにした留意点など非

常に参考になりました。日頃、自分が行っている接遇は大丈夫と思っていたながらも、実はできていないことが多いと気付いた参加者もいたのではないのでしょうか。講義のなかで印象に残ったことは、相手のことを思いやる気持ち（内面）と表情や態度などのカタチ（外面）のバランスが重要であるということでした。やはり表面的な接遇だけでは意味がなく、相手に対する気持ち（ホスピタリティ）を常に意識しなければならないと再確認した次第です。各自が今以上に接遇について意識を高めることで、病院全体の接遇がレベルアップするよう、このような接遇研修を継続して実施していく必要性を改めて実感いたしました。

経営企画室長：佐藤 栄治





私は今年度、「妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師」を取得しました。これは臨床経験年数や症例の提出、筆記試験、40時間の実務研修（私は国立成育医療研究センターで研修しました）などをクリアすることで取得できる日本病院薬剤師会による認定資格です。

妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師は、妊娠中・授乳中の薬の使用に関する

情報収集と情報提供について、専門知識を有しています。具体的には、妊娠中の場合では薬によってベースラインリスク（薬を使用しなくても児に何らかの先天異常が生じる割合）が上昇するか否かなどについて、また授乳中の場合では薬の母乳中移行の程度などについて、文献や疫学データより情報を集め、それを医療従事者や患者さんへ情報提供することを得意としています。

こうした知識を活かし、少しでも妊娠中・授乳中の女性の手助けができれば幸いです。また引き続き、各診療科の先生方やスタッフの皆様からの問い合わせには迅速に対応させていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

医薬品情報管理主任：永澤 佑佳

栄養管理室ニュース

病院食にご当地メニュー登場！！

栄養管理室では、患者さんへのサービス向上のために、今年度11月から全国各地のご当地メニューの提供を開始しました。月に1度のお楽しみ献立として、津軽地域で親しまれている「煮干しラーメン」や北海道を代表する郷土料理「鮭のチャンチャン焼き」、八戸の郷土料理「せんべい汁」を提供しました。患者さんからは「おいしかった」、「献立表を見て楽しみにしていました」、「新メニューをどんどん作ってください」など、嬉しいお声をいただきました。

食事を楽しみにしている患者さんや治療により食欲のわかない患者さんに、おいしく病院食を召し上がっていただけるよう、今後も様々なご当地メニューを考えていきます。

今回は、秋田名物の横手やきそばを提供する予定です。皆さん楽しみにお待ちしております！

栄養士：榎本 雄介



煮干しラーメン

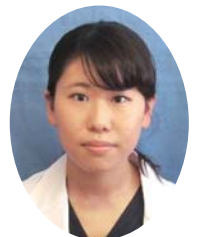


鮭のチャンチャン焼き

研修医便り

初期臨床研修医1年目の吉川未雪です。青森県弘前市生まれ弘前市育ちの25歳です。平成29年4月より国立弘前病院で研修医として働き始め、あっという間に9か月が過ぎました。はじめはカルテの使い方すらもわからず、迷惑をかけてばかりでしたが、皆様のおかげで、少しずつできることが増えてきたように感じます。

私は、4月から消化器内科で研修し、その後皮膚科、呼吸器科、外科、乳腺外科と研修してきました。各科でさまざまなことを経験させていただきました。1月からは放射線科でお世話になります。また、月4回程度の当直も少しずつ慣れてきました。スタッフの方々や上級医の先生方に助けていただきながら、日々勉強に励んでいます。まだまだ未熟でわからないこともたくさんあり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導よろしく願いたします。



臨床研修医：吉川 未雪

外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (2018年1月15日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊本 秀樹	横田 貴志	熊本 秀樹	熊本 秀樹	熊本 秀樹
呼吸器科		中川 英之	山本 勝丸	中川 英之	山本 勝丸	中川 英之
		山本 勝丸	下山 垂矢子	下山 垂矢子	下山 垂矢子	下山 垂矢子
		下山 垂矢子	森本 武史	森本 武史	-	森本 武史
		森本 武史	石岡 佳子	-	-	-
消化器・血液内科		松木 明彦	佐竹 立	佐竹 立	松木 明彦	佐竹 立
		山口 公平	山口 公平	松木 明彦	山口 公平	山口 公平
		佐藤 年信	飯野 勢	佐藤 年信	佐竹 美和	佐藤 年信
		石黒 陽	石黒 陽	飯野 勢	石黒 陽	石黒 陽
小児科		杉本 和彦	佐藤 工	佐藤 啓	佐藤 工	杉本 和彦
		佐藤 啓	岡本 剛	弘野 浩司	岡本 剛	弘野 浩司
		梅津 英典	-	-	-	梅津 英典
外科		柴田 滋	山名 大輔	柴田 滋	山名 大輔	三上 勝也
乳腺外科		小田桐 弘毅	小田桐 弘毅	小田桐 弘毅	櫻庭 弘康	小田桐 弘毅
整形外科	午前	黒瀬 理恵	秋元 博之	秋元 博之	リウマチ外来	秋元 博之
		佐々木 規博	佐々木 規博	佐々木 規博	黒瀬 理恵	黒瀬 理恵
	午後	飯尾 浩平	太田 聖也	飯尾 浩平	一般外来は休診	飯尾 浩平
脳神経外科		-	-	木村 正英	-	-
皮膚科	午前	熊野 高行	佐藤 正憲	佐藤 正憲	熊野 高行	熊野 高行
		佐藤 正憲	熊野 高行	熊野 高行	佐藤 正憲	佐藤 正憲
	午後	● 予約	● 手術/検査	● 予約	● 手術/検査	● 予約
泌尿器科	午前	成田 拓磨	成田 拓磨	成田 拓磨	成田 拓磨	成田 拓磨
	午後	検査	検査	手術	検査	手術
産婦人科		田中 加奈子	丹藤 伴江	丹藤 伴江	● 妊婦健診	湯澤 映
		湯澤 映	淵之上 康平	田中 加奈子	(一般外来休診)	淵之上 康平
眼科		蒔苗 順義	蒔苗 順義	蒔苗 順義	蒔苗 順義	蒔苗 順義
耳鼻咽喉科		西澤 尚徳	西澤 尚徳	休診	西澤 尚徳	西澤 尚徳
		葛西 崇	-	-	-	-
放射線科	診断	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄
	治療	-	-	川口 英夫 (午後)	-	川口 英夫 (午後)
女性専用外来		杉本 菜穂子(※予約制/第1・第3水曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		-	-	-	今 充	-

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

看護師の 言葉なさけに 冬晴れる

(チロル)

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

お知らせ

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hiroasaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：副院長 小田桐 弘 毅

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地
TEL 0172-32-4311
FAX 0172-33-8614
URL <http://www.aoi-mori.net/~hirosaki/>